

令和4年1月31日（月）第3回 病院長選考会議 議事録

場所： 大阪市立大学医学部附属病院 18階 第1会議室

出席委員： 河田医学研究院長（議長）、中村副院長、桑鶴副院長兼看護部長、池田副研究科長、
大阪府医師会 茂松会長、近畿大学病院 東田病院長、和歌山県立医科大学附属病院 中尾病院長（順不同）

オブザーバー： 西澤理事長

事務局： 医学部・附属病院事務局

（事務局）

それでは定刻になりましたので、第3回の病院長選考会議を始めます。議題はお手元資料に1から10までならんでございます。プレゼンテーションが始まりますのは、1時30分からを予定しております。それまでの間で、プレゼンテーションをどのように進めていくかを整理させていただければと思っております。まず新委員の紹介をさせていただこうかと思っております。前回、委員の交代の報告がございましたが、1月18日の臨時教授会で選ばれましたのが、現副研究科長であります、機能細胞形態学の池田教授でございます。一言、ご挨拶をお願いいたします。

（池田委員）

柴田委員の交代で、教授会で選出されました現副研究科長の池田でございます。どうぞよろしく願いいたします。4月からは大学の執行部で学術研究の副学長を拝命しております。その観点で今日の病院長としての資質と教育者、研究者、診療部門の長としての立場の選考に携わらせていただきたいと思っております。少し臨床の先生方立場とは異なる可能性もありますが、どうぞよろしく願いいたします。

（事務局）

ありがとうございます。新委員の紹介としてお話しいただきました。委員が代わりましたので、別紙1にございます通り、委員名簿を変更する段取りをしております。念のためご確認ください。では2番目の議題の本日の会議の進め方についてお話しさせていただきます。感染状況が悪化しておりますので、オンライン、ZOOMで閲覧者には閲覧いただく形にしており、候補者の方にはこの場でプレゼンテーションと質疑応答をしていただく形になります。もちろん選考委員の方々が選考としてご議論される内容については、視聴者の方々には閲覧できない形になっております。よろしいでしょうか。それでは3番目の議事、前回の議事録の確認をお願いいたします。別紙2に前回の議事録案がございますので、確認をいただければと思っております。こちらの方は本会議で承認されますと、HPに議事内容を速やかに公開する段取りとなっておりますので、ご確認をお願いいたします。もしお気づきの点がございましたら、この会終了までにご指摘いただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。では4番目の議題に移らせていただいております。こちらの方は病院長選考の候補者について、確認をいただければと思っております。辞退がございまして、27日に柴田候補が辞退したいということで書面をいただいております。また本日ですけれども、平田候補の方も辞退ということで、口頭ではありますが、意向を伺っております。よって候補者は荒川候補、大畑候補、この2名となり、この2名で本日プレゼンテーション等を予定しております。この2名で選考審議いただくということでご確認をお願いいたします。

(外部A委員)

これを見させていただきますとお2人というか、一人は副理事長であり学長である人と、もう一人は理事の方、ということで2人で選べということですね。これ外部委員としては、なんかこれはちょっと疑問が沸きますね。突然、本日になって2人になっているというのは、その辺がちょっとどういうことになっているのかな、ちょっとお聞きしたいような気がするのですが

(議長)

はい、私の知る限りにおいては、柴田候補については書面で私宛にいただいたのですが、推薦を受けて、ご自身も出られるということを決意はされたのですが、最近はまだコロナ関係の仕事が忙しくなり、体調の不良がかなりでてきたということで、ご自分で判断されてご辞退したいという旨のお話をいただきました。平田候補については、事務局何か聞かれていますか。

(事務局)

コロナ禍の中、病院運営に取り組み、2年、2年の合計4年の任期をされたというところで、ある程度、平田病院長の中でもやり遂げたところもあり、後任に任せたいというところの意向を聞いております。

(外部B委員)

一本化できなかったのですかね。内部の。

(外部A委員)

実際の話、外部委員から見ると、納得いかないというところもおかしいですけど、現在副学長している先生と理事の先生と戦うというのも、違和感がある感じがしますよね。これから大学を変えていこうという中で、こういうことになるというのもイメージが、我々としてもちょっとそういう感じが受けるところがありますけども。その中で無理やりやれということであれば、そうなるんでしょうけどもやっぱりちょっと外部委員としては。

(外部B委員)

結局、お二人になって、お二人をあげるのですよね。一番良いのは一致ですが、票が割れたら二人をあげるのですね。

(外部C委員)

病院長の選考の仕方について、この前少しお聞きした時には決まったものがないということをおっしゃられたと思うが、もう少しきっちり決めておいた方が良いのかなと、これからその議論に入るのだらうと思うのですが、理事長の先生がおっしゃられたとおりの評決とするのもどうかとか、多数決で1名だけ決めて、理事会にあげるのか、あるいは順位をつけてあげるのか、あるいは順位もつけずにそのまま議論もせずにあげるのか、その3通りぐらいあると思うのですが、どういう方法で決めたらいいのか、そのことを詰めておかないと、これからプレゼンを聞くのですけども、そのことも頭に入れてプレゼンを聞きたいと思いませんし。

(議長)

議長の意見を述べさせていただいてよろしいでしょうか。今回2名となりましたので、2名になった時点で、2名を上にあげるとするのはあり得ないと思うんですね。選考会議をしている訳ですので、選考委員会としてはこの方がふさわしいという結論を出すべきだと私は思いますので、今からプレゼンを聞いていただいて、あるいは出していただいた書面を総合判断していただいて、それから前回、前々回のこの委員会で、やはり内部がこの方を病院長にしたいんだという意向を明らかにしてはどうかという意見がありましたので、内部の委員でも少しプレゼン後、ご議論させていただいて、やはりこの方が現場としてはふさわしいという意見を外部の先生にお聞きいただいて、できたら一本化して学長予定者に報告するという方法を取らせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

(外部C委員)

ちょっとよろしいでしょうか。内部の委員でディスカッションしていただき、それを外部委員に聞いていただくというそういう主旨のお話ですが、我々外部委員もこのメンバーの一人には違い無いのです。同じ思いついとか、我々もその何というのですかね、どういう方法で決めていくとか、最終的にどういう方をどういう形で上にあげていくのかを我々外部委員もそのメンバーに入って、審議の中に入って、内部委員が決めたのを我々が聞いたのをそれを我々が決めるのではなくて、我々も委員会のメンバーとして関与させていただければと思います。

(議長)

もちろんです。ただ前回、前々回のご議論から内部の先生のご意見をお聞きして、そのロジックが正しいのかどうかをお聞かせくださいというお話でしたので、いまのような発言をさせていただいた次第です。

(外部B委員)

僕がその発言をしたのですけどね。最初4人の候補がでて、よく知っており、人格的にも全然問題ない、しかし今の現体制を、この期間の市大病院の体制を、これをよしとして、継続したほうがよいのか、それともダメなのか、そういう細かいことはわからないので、ある程度の結果をお示ししていただきたい、こういう形がよいという、そこでまたディスカッションするのが一番いいな。

(議長)

もちろん、外部C先生のおっしゃったとおりで、我々の意見を一方的に述べるのではなくて、外部委員の先生方のご意見もお聞かせいただきながら、最終的には委員会としてこの方という全会一致でできれば選べればと思います。それでよろしいでしょうか。

(事務局)

それではこの2名でプレゼンテーション、質疑応答を行っていただきまして、選考していただければと思っております。次の5番目の議題ですが、プレゼンテーションの資料が1月21日まで変更が可能となっております。今回、荒川候補と大畑候補の資料変更がありましたので、配布しました資料に添付しておりますので、ご確認ください。次に6番目の議題になりますが、プレゼンテーションについては、先ほどご説明しました通り、この会場で順番に荒川候補、それから今回40分時間を取らせてもらっております。人数が少なくなりましたので、15分のプレゼンテーションの後の質疑応答、入れ替わりの時間も考慮し、お一人40分

の時間を取らせてもらっております。大畑候補は 14 時 10 分から始まりまして、約 40 分を予定しております。その後は、選考委員の皆さまで選考いただくということで、十分にご議論いただければと思っております。それから 7 番目の議題に移らせていただきます。評価の着眼点及び評価基準については、別紙に付けさせていただきますところでありまして、A3 の折りたたんだ書類になります。こちらはお二人の候補者ということで急遽議長の方が作成いただいたものになっております。こちらの方は、議長の方で説明いただいておりますでしょうか。

(議長)

はい。議論の参考になるように作らせていただきました。2 候補になりましたので、急遽作り替えた部分もごさいますが、提出いただいた経歴、所信表明、プレゼンテーション資料に出てくる内容をここに網羅的に書かせていただいております。それと各候補者の強み、あるいは弱みについて、あくまでも私の判断ですが、付けさせていただきます。このようなことが正しいのかどうかも含めて、プレゼンテーションをご覧ください、子の資料をもとにプレゼンテーション後のご議論を進めていただければありがたいと思います。あくまでもこれは議論のネタということで、ご理解いただければありがたいです。以上です。

(事務局)

はい、ありがとうございます。今後の選考に入っていただくときの、着眼点としてまとめていただいたものになりますので、ご確認いただければと思います。

(外部 C 委員)

荒川候補と大畑候補の強いところ、弱いところで○△が書いてありますが、これはどなたが評価されたのですか。

(議長)

私です。私が知る限りにおいて、こうではないかなというものです。もしこれは言い過ぎではないかということでしたら、消していただいたら結構です。

(外部 C 委員)

事務局ではなく、議長の判断ですね。ということは一資料として判断すればよいですね。これもルールが分からないのですが、こういった選考委員会の議長というのは、あくまでも議事進行を行うものであって、いろんな評価に関しては、我々が可否同数の場合は最終的に議長が決することとなるかと思いますが、それまでは、あくまでも議事進行に徹するというように一般的にはなっていると思います。それを前もって、議長自身が評価されるのは、ちょっと違和感を感じました。

(議長)

あ、すみません。私だけというのは言いすぎで、前回内部委員会も行ってございまして、その場でこの 4 名で検討したのも含んでおります。

(外部 C 委員)

わかりました。

(議長)

ただし事務の方は全く関与しない。内部委員だけで作っております。最終的に全体的にまとめたのは私の方です。ちょっと慌てて。

ということは、内部委員の皆さんで議論されて、この○△を付けられたということですね。

(議長)

そう考えていただいて結構です。

(外部A委員)

経験が全然違いますよね。学長されていた方と。その中でこういう評価をされると、当然経験が多い方が○いきますよね。そういうのは、外部委員としては違和感を感じます。基本的に大学が変わることによって、どういう信念をもって、どういう大学に変えていこうかという、今までのことを引きずっていくのか、それとも新しい病院として府市で変えていくのか、その大学の在り様が、皆さんどう思われているのか、ちょっと疑問をもってしまうなという、感じをもちますね。

(議長)

大学については、会議の後半に議論がありましたように、新大学の基本構想がございますので、それを推進していただける方を選ぶ、そのためには経験も必要でしょうし、その辺りを先生方にご判断いただければと思いますし、内部の考え方でよいのかをご判断いただければよいのではないかと考えております。たぶんあの外部C先生からご指摘があったように、内部で活動されている両候補のことを恐らくご存じないと思いますので、そういう視点でこういうことも活動されているし、アクティビティが高い点など、見えない点を。

(外部C委員)

プレゼンテーションを聞いて、我々はそれ以外のことを知る由もないのでこの評価の○△は少し蛇足かと思いました。

(事務局)

新大学の構想については、iPadの資料でもご用意しておりますので、後ほど選考の際に参考資料としていただければと思います。次に質問事項についてですが、プレゼンテーション後の質疑応答の際の内容ですが、前回の議論いただいた内容を別紙5、6ページに3点まとめておりますので、ご確認ください。新大学大阪公立大学の医学部附属病院としてのビジョン、働き方改革への対応、コロナ禍における急性期病院の運営ならびに経営についての考えをお聞かせくださいといったところかと思っております。質問事項は議長がされますか。

(議長)

私はこの1番の代表質問をさせていただき、口火を切る役割をさせていただこうかと思っております。

(事務局)

ではその後は順次ご質問いただくということでお願いいたします。それではそろそろ1時30分になります

ので、最初の候補者のプレゼンテーションの準備に入らせていただいて、よろしいでしょうか。何か確認事項等ありますでしょうか。特にないようですので、最初の候補者をお呼びするよういたします。

=====

プレゼンテーション

=====

(事務局)

はい、ありがとうございました。今後ですけれども、候補者の選考に入っていただきまして、最終的には別紙6というかたちで、書面にまとめていただきたいと思います。

こちらについては、本日いただいた意見をまとめまして、本会議の会議録の確認もごございますので、メール審議にてご確認をいただきます。こちらの別紙6の様式は、従前より使用していた様式になっていまして、前々回においては、選考規程の中では、1名を選考するというかたちの記載となっており、報告様式もそのようなものになっていました。ただ、前回委員会の方から複数名候補者を報告しても良いのではないかという意見があり、複数名報告できるという規程に変更されました。今回、そういった経緯を含めまして、2名の候補者が出ていますので、どのような形でまとめていただいて選考報告をしていただくのかをご議論いただきたいと思っています。それでは議長の方、よろしくお願い致します。

(議長)

はい、ありがとうございます。プレゼン聞いていただき、ありがとうございました。

それでは、書面並びにプレゼンの結果を、先生方のご意見を頂戴しながら、今から選考を進めて参りたいと思います。最初は、フリートークにより、プレゼン等でどういう印象だったか、述べていただいた方がいいのではないかと思いますけれどもいかがでしょうか。順序ですけれども、いかがでしょうか。

(外部A委員)

1人1人印象というか、できたら内部委員の先生方からご意見をお聞きしたいと思います。

(議長)

では、書面並びにプレゼンテーションをお聞きいただいた各委員のご意見をお伺いしたいと思います。その方が確かに分かりやすいと思います。

(内部C委員)

どちらも立派な先生なので、私は学術的な立場で感じたことを述べさせていただきます。

大畑候補については、産学官連携により国際化を進めるという立場でその気持ちは伝わりました。ただ、私の学術的な立場から言いますと、荒川候補が培って来られましたソウル国立大学とのMOU、香港中立大学とのダブルディグリー等の他の方ではなかなか出来ない大学の発展・国際化を推進して来られた突破力というのは少し他に代えることはできない点ではないかと感じています。

病院の医療体制及び経営面については、私は素人ですので発言は控えさせていただきます。

(内部A委員)

両方の先生とも非常に勉強になるプレゼンテーションであったと思います。荒川先生は、医療の質改善について医療安全上の具体的な取り組みを行われていて、また、学長という観点から地域ネットワークをつくってスマートホスピタルを目指すといったお話を聞かせていただきました。大畑先生については、国際的な活動をされていて、組織管理能力も医学部長としても発揮されていました。医療安全の観点から言うと、特定機能病院における医療安全の経験という点では大畑候補の方が荒川候補より少し経験では少ない印象を受けています。

(内部B委員)

どちらの候補の方も、大阪公立大学になったときの大学病院としての役割を良く考えていらっしゃると感じました。荒川候補は冒頭に仰っておられましたが、今の病院の体制だとか現病院長の方向性を踏まえて、と言っておられましたが、看護部としましては、現在のこれから何年か先を見据えた病院の体制のことをどんどん改革を進めていくことについて賛同していただけるのではないかという風に思いました。もう一点は、副院長時代に Face to Face の会等を通した外部との連携について、今はコロナ禍で自粛しているのですが、そういう地域の連携のところがまた少し状況が収まりましたら、病院にとっても有益なことになりますし、賛同する方ができるのではないかと感じました。以上です。

(外部A委員)

私は、大畑先生のプレゼンテーションの方が良かったかと思いました。率直に言ってそう思っています。なぜかというと、やはり働き方改革または医療安全について国が示してきている方策にどう対応するかということを確認に話されておられました。荒川先生の方は、やはり以前からの病院の在り方を考えたうえでの働き方改革のお話であったので、決して国が行っている内容に沿っていない、ちょっと行ったら怒られるかもしれないが、時代に合っていないのかなという気はしております。そういう意味では大畑先生の方が現在プレゼンテーションの内容が現在にマッチしているのではないかと、医師会の立場としてはそういう風に感じました。

(外部B委員)

今プレゼンを聞かせていただいて、各委員の意見を聞いていると、内部委員では決まっているな？という印象を持ちました。率直に思いました。そうすると、これ投票までしてね、遺恨を残しますよ。病院が割れてるって大変ですよ。これからも一緒にやっついていかないといけない。このコロナ禍にあっても、一度みんなで考えられたらどうですか。ここで僕らが、外部委員がどうこう言っても、内部のことは内部の方が一番分かっておられるから、と思うんですよ。もちろんその意見は尊重します。ここで単純に数の原理で決めるのは、後々うまくいかない気がします。これも一回考えられた方が僕は良いように思います。

(外部C委員)

お二方とも大学の執行部におられて、大学の育成についてすごく考えられていると思います。すいません、内部A先生。あの医療安全なんですが、荒川先生の方が少しというご意見でしたが。安全管理責任者として副院長としての経験ということですか。

(内部A委員)

そうです。特定機能病院におけるという意味での経験です。

(外部C委員)

医療安全管理責任者として副院長を務めたのはいつでしたか？
かれこれ10年以上経っているのではないのでしょうか。

(内部A委員)

2010年です。

(外部C委員)

10年以上経っていると思います。僕もずっと、医療安全管理責任者を務めてきましたが、日進月歩だと思っています。内部A先生もそうですね。確かに歴としてはあるけども、果たして10年前の医療安全管理責任者としての経験値と今の医療安全管理責任に応用できるかというところではないと思います。大畑先生は本院ではないと思いますが、スライドでも述べておられたように、医療安全管理に対しては、それ相応の活動をされておられますし、現在いらっしゃる病院でもされていると思います。現在の医療安全という意味においては、決して荒川先生に大畑先生が劣らないと僕は思います。それはスライドを拝見しても感じました。

(内部A委員)

確かに、外部C先生の言う通り、大畑候補はプレゼンで触れられていましたし、最新の知見だと思います。ただ私が申し上げていますのは、医療法の10条の2に書いてあります、「特定機能病院における」ということに対してで、その観点から申し上げています。

(外部C委員)

歴はあるということで、事実は事実として、もちろんそうなんですけども、今の大きな附属病院の管理者として医療安全をやっていく最新の情報と知識が必要だと思います。ですから決して医療安全ということでは、大畑候補が荒川候補に劣っているとは思いません。

(内部A委員)

劣っているというか、言及がそれほどなかったという印象です。

(外部C委員)

医療安全に関して自分はそう思います。

(外部B委員)

こういう議論はあまり良くないと思います。この病院をちゃんと良くしないといけないし、医師会ともこれからずっと一緒にやらないといけないし、ここでこういう形は良くないなあとって聞かせていただきました。

(議長)

各論になってしまうとそうになってしまうのですが、どういたしましょうか。ただ、これ決めてしまわないといけないですね。

(外部B委員)

数で決められるのは後に尾を引くので良くないなあ感じます。ですので、一旦決められて、こちらは同意するしかないの、ほんとに。内部の先生でないと分かりませんからね。あんまりこういう議論をしているとあっちが良い、こっちが良いということになる。

(外部A委員)

これ投票したら結局、4対3になるでしょ。おそらくそうなるんじゃないですか。大畑先生が外部委員で3になるんだと思います。その中で決めるということが、大学がそれで良いのかということだろうと思います。そこをもう一度中で考えていただいて、ほんとに、公立大学としてスタートするときどれが一番いいのか、感想として申し訳ないんですけども、荒川先生もいい先生だと分かっています。しっかり学長としてやって来られたのも知っていますし、ただ、お話を聞くとやっぱり今の時代の中で、明確にされてきたところを明確にしていない、曖昧と発言されるところがものすごく自分には引かかった。大畑先生は確かに、民間病院で働いて、やっぱり医療安全等いろんな部分を勉強されて、明確に流れを分かっておられるなという印象を持ちました。だから外部委員からしたらプレゼンテーションは大畑先生が上になると思う。だから投票したら4対3になろうかと思う。この中で本当に決めていいのかと思います。これで公立大学としてスタートしていいのかということで、皆さんで考えていただいて明確にして頂いたら外部委員としては何も言わざるを得ないと思います。そのことだけ自分は言いたいと思います。

(議長)

私も発言させていただきたいのですが。議長ではありますが、外部C先生よろしいでしょうか。

(外部C委員)

結構です。

(議長)

申し訳ないです。我々内部委員で前回会議を開催して意見をいただいております。また、研究科長ですので執行部の先生方がどう考えておられるのか全員ではないですが、大多数のご意見はお聞きしているつもりではありますので、その意見を尊重して考えますと、やはり4月から新大学になるということを非常に皆さん危惧しています。もちろん大阪府立大学には医学部及び附属病院はありませんので、その点は大丈夫だと思っております。やはり内部C先生がご苦労されているのですが、市大と府大で制度が異なっておりまして、例えば研究費の使い方とか倫理委員会及び利益相反委員会であるとか、そういうことを考えて行くと臨床研究のやり方や治験のやり方が相当変わっていく過程にあると考えております。そんな中で、安定して医学研究科及び医学部附属病院の運営をやっていこうとした場合に、やはりここは荒川先生のご経験で2年間、少なくとも2年間この医学部附属病院を率いていただいて、府大と市大が合併していく過程に安定的に運営していただくためのお力を貸していただきたいというのが我々の立場であります。そこであの、やはり平田病院長がやって来られた方針もありますでしょうし、平田病院長と荒川先生は太いパイプがありますので、そうであれば比較的スムーズに病院運営及び医学研究科運営、また大学運営に貢献できるのではないかと考えております。そういった点で、学長としての広い学識、国際性とか発信性。発信力凄いある方ですので、そういったものを言葉はわるいんですけども利用させていただいて、それで2年後にはもう若い病院

長になるにふさわしい方が内部にいらっしゃいますので、その方にバトンタッチしていただきたいと。そういう機会として今回我々内部委員としては捉えたいなと思っている次第です。

(外部B委員)

そういうところがはっきりしていたら、別にね。そういう事情があれば細かいところはね。ただ単にプレゼンを聞いて、どうのこうのということではない。教授選考のように、提出された資料を見て議論することでもないと思う。

(外部C委員)

もう一点確認したいのは、これ議事録をとっているんですね。議事録はホームページに公表しますね。委員が言った内容、委員長が言った内容、我々外部委員が言った内容、全てそのままアップするんですか。

(事務局)

今までは、一言一言は長くなるのでやっておりませんが、仰っていただいた趣旨を、はい。

(外部C委員)

ではいま外部B先生、外部A先生が仰ったことも全て出すわけですね。ホームページに。そういうことですね。

(事務局)

原則そう考えています。

(外部C委員)

こういう選考委員会と言うのはクローズにするものではないですから。必ず議事録全てオープンにするべきだと思っていますから。普通病院長は、病院の総選挙で行うべきだと思っています。ただ、特定機能病院の要件にコミッティを使ってするということになっていますけど、そうなればなるほど、やっぱり、ここの中で審議した内容をオープンにすべきだと思います。大阪市大ほど大きな病院であれば。

(外部B委員)

まあ通常はですね、特定機能病院はこれやらないとダメなんですけどね、ほとんどこういう対抗馬出てきて、じゃないんですよ。今のところね。内部で決めてこれでどうや、そこで批判はされるかもわからないけど、こういう形って、ほんとにこう選挙になって、ねえ。かなり尾を引くような。

(外部C委員)

選考委員が決まったときに、もうすでにその話は決まっていたんですか。これも議事録に残しておいてくれたらいいですけど。選考員が選出されますよね、我々も含めて。内部のメンバーも。その時にはもう、先生が今おっしゃった方針は決まっていたんですか。

(議長)

いや、決まっていません、もちろん。

(外部C委員)

選考委員会はこれで3回目なんですけど、1回目、2回目、審議をやるにつれて決まっていったんですか。

(議長)

まあ。

(外部C委員)

でもあの審議の中で、そういう結論を得られたような審議は、僕には読み取れなかったですよ。

(議長)

はい。

(外部C委員)

だからどこで決まったのかなと思って。

(議長)

それはやっぱりあの、内部の方で。

(外部C委員)

ということは、外部はヒアリングというか、傍聴ということになりますよね。

(議長)

いや、それは最初に述べましたように、1回目、2回目の委員会の席上で、内部の意見をまとめて頂いて、それを我々が、そのプロセスが正しいのかどうかを審議させて頂くということが。

(外部C委員)

外部B先生はそのプロセスが正しくないという結論じゃないんですか。多分。

(議長)

私にはそう聞こえたので、こういう風な形になってしまったのですが、しかもまあ、内部が。

(外部B委員)

1回目のときは候補者が出ていなかったんですよ。そこから候補者が出てきて。

(外部A委員)

あの時は、病院の中で、この人が貢献していてこの人がいいですよ、という雰囲気に分かれば教えて頂くと良いですよ、なんていう話はしていましたよね。

(外部B委員)

2回目の時は、大体中で決まってるんでしょ、という話はしましたけどね。

(議長)

そうです。

(外部B委員)

そういうのが分かっていたら。あんまりゴタゴタするのは、僕あんまりよろしくないなと思っているんですけど、一番。これまた府大について、府大からまたいろんな意見も出てくるわけでしょう。旧市大固まらないと。それこそ。本当に。ここで割れたら。

(外部C委員)

もう一つお伺いしたいんですけど、選考委員会というのは最終的な議決機関というか。この病院長選考に関しては。

(議長)

そうです。

(外部C委員)

ここで決まって、理事会に上げるんですかね。理事会に上げて、そこではもう議論の余地は無いんですか。

(議長)

ここで決まったことを、学長予定者に報告する。

(外部C委員)

学長予定者はどうするんですか。任命する？

(議長)

それを理事長に報告する。

(外部C委員)

理事長が決定ですか。任命ですか。

(事務局)

任命です。

(外部C委員)

もうお二人甲乙つけがたい方々という結論で挙げたとするじゃないですか。それを理事会で、もう一度審議しなおすという選択肢は無いんですか。

(議長)

それは無い。

(外部A委員)

それはないでしょうね。

(事務局)

理事会は無いですけども、最終的に任命権者の方が、最終任命はされるということはあります。

(外部B委員)

それをひっくり返すということは可能なんですか。

(事務局)

不可能ではないです。はい。

(外部B委員)

ややこしいな。

(外部A委員)

ややこしいね。

(外部B委員)

まあとにかく、揉めないように。本当に。病院固まってもらって。それを一番思いますね。

(外部A委員)

いや、もう病院全体として荒川先生がいいと言うんだったら、それでね。それでいいと思いますけど。こういう議論があって、それを表に出して、みんながそれでO.K.ということであれば、それでいいんでしょうけどね。

(外部C委員)

ただ、こういう決め方をしたというのは、オープンにするべきだと思います。きっちり議事録で、ホームページに載せるべきだと思います。ただ単に、総論的な内容しか書かないで、最終的には全会一致で誰それに決定したというような書き方はやめといた方がいいと思うんです。そのプロセスも充分に書いた方がいいと思います。外部委員の先生方の話の内容も充分入れて。

(事務局)

議事録案は作成しますので、確認頂ければと思います。

(外部C委員)

これ。強引な決め方では決してないですよ。

(議長)

強引？

(外部C委員)

元々決めていたことを、この委員会で承認してもらおうというプロセスを踏んでいるということですよ。

(議長)

元々決めていたというか、内部委員は少なくともまとまっている。意見の一致を見ているということ。

(外部C委員)

それはこの1回、2回までの会を経るにしたがって、そういう意見にまとまってしまったということですか。

(議長)

はい。

(外部A委員)

僕ら心配するのは、その病院の中でちゃんとそれが、内部委員と全体が意見の一致をみているのであれば全然問題ないと思うんです。ただ、それを心配するんですね。

(外部C委員)

病棟の師長さんとかは皆さん納得されているんですか。看護部長から見て、看護部の皆さんは、誰がなるかとか、誰が立候補されているとかご存じなんですか。

(内部B委員)

ホームページ上で…

(外部C委員)

あまり気にされないんですか。まさに看護部、それぞれの病棟の師長さんは本当にステークホルダーになると思っているんですけど。どうなんですか。

(内部B委員)

個人的に言いますと、辞退された平田病院長が4年してこられましたので、看護部の副部長達は現病院長を推薦しました。

(外部C委員)

その現病院長が、さっきの話では禅譲する格好で荒川先生にという、そういう観点から看護部長さんは荒川先生の方がいいと。

(内部委員)

はいそうです。そこが大きいです。師長たちの意見を還元するとかはやっておりません。

(議長)

私の知る限りでもここ何年かの病院長選考で職員の意見を聞くという機会はほとんど無くなっておりまして、この委員会で決めるということになっておりますので。したがって我々も、執行部の中でこういうお話をする機会があったとしても、教授会でお話しする機会はありませんし、教授会がどういう意思決定をしているのかも分からない状態でここに臨んでいるのが、このところの病院長選考ですので、全員の意思と言われると。

(外部C委員)

勿論そうなんですけど、この委員会に出席するメンバー、特に内部委員の方々は看護部長も含めて、やはり現場の皆さんの声を掬い上げるのが大事なと僕は思うんですね。

(外部B委員)

それはある程度聞かれているんじゃないですか。今の話でも。まあみんなの話を聞くのは無理ですわ。責任をもって、ここの委員会がやるということでもいいと思うんですよ。僕はね。何回も聞いているのは、今までここの病院が経営も含めて、この間も、収益どうなんですかと聞いているのはそれなんですよ。それをよしとするのか。それプラス、統合によってどういうふうに行っていくのが明確になっていて、この人というのが一番なんですよ。で、今の統合のことに関しては、そういう今までの経験等々で大畑先生、という推薦をされても、それはそれでいいじゃないですか。あと、経営収益の部分ではどうなのか。そこだけですよ。これは改善せないかんのか、そのままがいいのか。そこらのことがある程度明確になっておれば、経営の方と運営の方とを、大畑先生は大畑先生、荒川先生は荒川先生、そういうのが出たら別に私は。そこで内部でこうなんですと。それで、内部の意見は充分尊重する。一番大事なところはそこだと思いますから。

(議長)

そういう観点からしますと、平田病院長の4年間、病院経営というのはすごく改善しております。それから、MedCity21という人間ドックセンターの経営も黒字化されまして、平田病院長がなされた経営手腕というのは素晴らしいものがあったと思います。その平田先生とのお約束を荒川先生がされているという点では、先生の一つの指摘に答えられる、現状を維持しつつ発展をさせるということが、一つの手法だと思います。もう一つは学術的な観点でありまして、こちらにおいては国際化の問題も含め、新学長が言われている産学協創という点等を考えて、また、府大と市大の文化の違いも考えますと、これまで色々な施策を講じられてきて、しかも自分でも外部資金を精力的に獲得されているのが荒川候補でございますので、そういった点でも内部の考え方は、ある程度は、もちろん多少の相違はありますが、一致しているのではないかと思います。

(外部B委員)

それなら、ここの病院としてこれが最大公約数で、これでおそらく皆さん納得するであろうと。その分何か起きたら責任を取りますよ、ということですね、委員会が。それでないとダメですよ。

(外部A委員)

もう一つはやっぱり知事、市長との関係でしょうね。それをうまく公立病院としてやっていける、それが荒川先生が良かったらそれでいいんだろうと思いますね。それが一番大切かなと僕は思いますよ。

(外部B委員)

そういうところはまた、理事長も含めてお話しされたら。

(理事長)

ちょっと意見言ってよろしいか。

(議長)

いえ先生、意見は言えないです。

(外部C委員)

僕はお聞きしたいですけど。

(議長)

いや、これは独立した会議なので、発言は控えて頂きたいと思います。

(外部B委員)

議事録に載せなくてもですか。

(外部C委員)

議事録に載せなかったらいいんじゃないですか。

(議長)

載せない、でお認めしますか。

(外部C委員)

理事長の仰ることをね。

(外部B委員)

いいのか悪いのか僕にはよくわかりませんが。

(議長)

いや、規程上は議長が。まずこの委員だけで会議をすべきですので。ここで理事長が発言されるのは、差し控えて頂きたいと思います。

(議長)

内部A先生、いかがですか。先生、筆頭副院長ですので。

(内部A委員)

先生の意見に従います。

(議長)

いや、内部の雰囲気とかですね。

(内部A委員)

私は病院運営会議からの代表で来ていますが、メンバー全ての意見を聞いているわけではないですが、まあ公約数的な。一人一人を捕まえて。昔は全職員の投票。

(内部B委員)

全職員。

(内部A委員)

全職員で。だいぶ前になってしまいます。

(外部C委員)

少なくとも部署の代表に意見を聞くのも良いかなと思います。

(議長)

内部A先生、病院運営会議の筆頭として、どう思われるか。

(内部A委員)

我々としては、現在の病院経営、医療安全の面も含めて、難しい2年間だったんです、ともかく。コロナもありまして。医業収益単体を見ると下がっている。うまくその、特定機能病院が本来する医療と、コロナに対する対応とは、まあ平田病院長ですけど、舵を取られて、最終的には前年度よりも収益をあげられたことになるんですけど。

(外部B委員)

補助金のことを考えないと。

(内部A委員)

我々としては、現体制の継続というのが一番。まだコロナも続いていますし。まだ、未知との遭遇という部分があるものですから、経験を活かしたかったというのが本音なんです。

(外部C委員)

そういう観点からであれば、現院長が継続してするというのが一番良かったんでしょうね。看護部長さんのお話も総合すると、内部の先生方の意見も。

(外部B委員)

病院経営としてはそういうパターンの動きが良いんだろうけど、大阪府大等々との、そういうことですよね。

(議長)

やっぱり非常に特殊な時期だと我々も認識していますので。

(外部B委員)

それこそ固まらないといかんですよね。そうなると、あんまりよくないよね。今度こそ固まらないと。

(外部C委員)

もう一つ、おっしゃられて気になったところは、2年間と限定するような感じでおっしゃっていたと思う。それは。

(外部B委員)

限定じゃないでしょ。決まってるんですか。

(委員)

いや、2年ごとに選挙がありますので。

(外部C委員)

そういうことですか。どなたになるか分からないですけど、その方が2年後に大阪市大と大阪府大が一緒になった後も、場合によってはその方が引き続いて病院長をされていくんですか。この合体する大変な時期に附属病院のことを担当して頂くと僕には聞きとれたので、そうではなくって、ということですね。

(議長)

そうではなくって？

(外部C委員)

そうではなくって、たまたまそういう時期が重なったけど、大阪市大は任期はあるけれど何期でもできたとお聞きしたので、今回もし院長になった方が2年ではなくって、さらに次の2年やっていく可能性があるということですか。例えば、荒川先生が学長になられて何年も経って、今回病院の方に仮に復帰されるとして、病院長にこの2年間だけでなく、更に、ここの病院長として何年も続けられる可能性があるということですね。

(議長)

それは分かりません。

(外部C委員)

分からないけど、可能性としてはあるということですね。この2年間に限定するというものではないということですね。

(議長)

まあ限定するのでは勿論ありませんが。

(外部C委員)

いや、先程の言い方ではそんな感じにも受け取れたので。

(議長)

いや、病院長選考は2年ごとにあるので、もしも、例えば、これは院内であった議論なんですけど、やはり若返りをした方がいいんじゃないかという議論も当然ございますから、そういう候補になる方も今後いらっしゃるんで、また2年後に考えることもできるだろうということです。

(外部C委員)

そういうことですか。

(議長)

はい。

(外部C委員)

では、今、若返りは難しいんですか。

(外部B委員)

合体のことがあるから、という。そういう、ね。

(外部C委員)

というふうに、外部から見ると、疑問点がいっぱいあるんですよ。

(外部A委員)

そこだけがちょっと気になるなという。

(外部B委員)

ほんまそうですよ、ぶっちゃけた話ね。

(外部A委員)

これだけ降りておられる、急にまた降りるとか。ええ？という、ちょっとまあ外から見ると。

(外部B委員)

なんかもめてるねんなあというだけ分かりますわ。これは本当に良くないなあ、と。

(議長)

勿論、数の論理ではないのですが、大多数の者は、内部委員の意見を理解してくれているし、賛同頂いているということは御理解頂きたいと思います。

(外部B委員)

では、最終的には理事長先生が決めればいいわけですね。候補が上がって。

(議長)

そうです。

(外部B委員)

それで、僕は良いと思いますよ。大学で決められたら。

(議長)

ではそれで、ご了解いただけますでしょうか。

(外部C委員)

で、2人を挙げるということによろしいですね。

(議長)

はい？

(外部C委員)

2人を挙げるということによろしいですね。

(議長)

いえ、1人です。

(外部C委員)

甲乙つけがたいという議論だったと思うので、とりあえず2人挙げるということによろしいんじゃないですか。あとはもう、決定は理事長に委ねるでいいんじゃないですか。

(議長)

いやいや。

(外部C委員)

理事長のガバナンスというのは強いと思うので。

(議長)

いやいや、学長予定者に上げるわけですので。

(外部C委員)

学長予定者に2人挙げて決めてもらったらどうですか。

(議長)

いや、それはどうかと思いますけど。

(外部C議長)

難しいんですか。でも、規程にはそういう規程ないでしょ。1人だけ上げないといけないという。どうなんですか。

(事務局)

規程には無いです。

(外部C委員)

2人挙げてはいけないという規程も無いんですよ。

(外部A委員)

規程は無いんですか。一人とか2人とか。

(議長)

でも従来、これまでは1名しか上げていない。

(外部C委員)

従来を踏襲しなければいけないんですか。

(議長)

踏襲しないとイケない…。まあ事情としてはですね、これもあれですけど、今度新大学の学長予定者の先生は、府立大学の工学研究科の出身の先生で、今は荒川学長なので、医学部の御事情を充分にお分かり頂いてご判断頂けると思うんですけど、今度は辰巳砂新学長で、工学部の先生ですので、やはり医学部の事情を精通しておられないところもございますので、私たち選考委員としては、医師1人を選定して、この方を医学研究科としては推薦したいというふうにお持ちした方が、工学部の先生としては、ご判断いただきやすいのではないかと思います。そうでないと、おそらく判断材料が、先生方外部の先生でも難しいというお話がずっとありましたので、ましてや他学部の先生だと、ご判断頂くのは非常に難しいと思いますので、1名にしたいと思います。

(外部A委員)

外部からの評価はどうなんですかね、これ。私もそこは引っ掛かりますけど。1人と限定されなくても、2人上げたらどうなんですか。

(外部C委員)

新しく学長に就任される方は、医療に詳しくないので、ということで、ですか。

(議長)

はい。

(外部C委員)

それは、大阪府立大と阪市立大とが合併する大きな組織なので、それをサポートする組織というのはあるんじゃないですか。理事会なり或いは評議委員会か何かあって、そこで審議して学長に答申するという格好でいいんじゃないですか。ここでの議事録とかも、その学長先生に見て頂いても良いと思います。

(議長)

勿論そうですね。

(外部C委員)

ただ単にこの1人に決まりましたというのを議論にあまりお詳しくない学長に持って行くより、ここでの議論とかを持って行ってもらって、2人のうちどなたかを決めて頂くというのも一つの考え方だと思います。

(議長)

先生方にご覧頂くこの委員会の議事録も含めて、この2人が出られて、こうこうこういう理由でこの方を選びましたというところで、2名の名前は出てくるという形にしたいと思います。

(外部B委員)

議事録もついていくわけですね。

(議長)

はい？

(外部B委員)

議事録も。

(議長)

はい。

(外部B委員)

いいんじゃないですか。それでね。

(外部A委員)

議事録では、内部委員としては荒川先生を推されて、外部委員としては大畑先生を推したと。という風にし

て上がっていくということなんですよ。

(外部C委員)

2人だとどうしてダメなのかなど。規程にもない、今回はかなり特殊な状況だと。府立と市立が一緒になる。その状況下において、4名出たにもかかわらず2名が突然に辞退されたという、そういう特殊な状況下において、その2人をあえて1人にするより2人を挙げるという方法もありかなと思うんですけど。規程にもしなければですけど。それも一つの方法かと思います。

(議長)

ただ、先程御結論めいたことも頂いた通り、本委員会としては、内部の意見を尊重して、いろんな事情も尊重して、この方はどうでしょうかという形で上げさせていただくのも、それはそれで筋が通っていると理解しますが、いかがでしょうか。

(外部B委員)

それでいいんじゃないですか。

(議長)

はい、ありがとうございます。

では、それでよろしいですか。では、他事務局から何か。

(事務局)

特にはございません、ご多忙の中ありがとうございました。またメール審議をさせていただきますので、活発なご意見を頂きましてから学長予定者に報告をあげまして、学長予定者が理事長に申し出て、理事長が任命するという流れで進めさせて頂きたいと思います。

どうもありがとうございました。

(一同)

ありがとうございました。

後日、議事録案確認の際、外部委員より以下のご意見があった。

「厚生労働省の「特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会」では、医療安全に係るガバナンスが特定機能病院で確保されるように、管理者（病院長）の選考委員会には、「開設者と特別の関係のない者」を複数名入れることを義務付けるとされ、2019年4月以降は中立な選考委員会での選考がより強化されました。

また、国立大学附属病院のガバナンス強化に向けた（提言）では、病院長の選考については複数の候補者の中から学長が選考することが重要であると示されており、他の大学においても遵守されております。

今回、議事録の23ページの上段に記載されておりますとおり、（議長）「委員会の議事録も含めて、この2人が出られて、こうこうこういう理由でこの方を選びましたというところで、2名の名前は出てくるという形にしたいと思います。」と発言がなされております。

加えて、「大阪公立大学医学部附属病院長選考規程」にも選考会議からは1名を学長に報告するという記載はなく、大畑建治医師、荒川哲男医師の両名を選考結果として速やかに学長に報告することが望ましいと考える。

また、本議事録については学長にも提出し、内容について確認頂きたい。」